

研究テーマ：「思考力、判断力、表現力を育てる指導とその評価方法の工夫改善について」

～ 指導と評価の一体化を図る実践を通して ～

- (1) 単元名：郷土料理ってすごいな！
- (2) 題材名：沖縄の郷土料理を調べよう。
- (3) 本時の指導計画

- ① ねらい：グループで調べたことを工夫して発表することができる。
：他のグループの発表を聴きながら、郷土料理の良さを見つけることができる。
- ② 授業仮説：グループで調べたことを工夫して発表することによって相手に分かりやすく伝えることができるとともに、これまでの学習の成果を全員で確認できる活動になるであろう。

国頭地区教育課程研究発表会である。これまで2回の検証授業を積み上げ、本日が研究員達にとって本番である。

7月には仲村先生、9月にはM先生が検証授業を実施したが、うれしいことに本番では一番ベテランのT先生の公開授業となった。

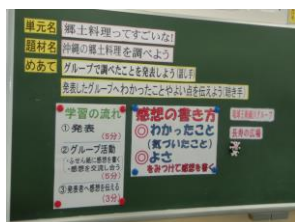
前年度より研究テーマである「指導と評価の一体化」の「総合的な学習の時間」の研究が地道に積み上げられている。昨年の研究員の一人が転勤となり、今年には新たな研究員で構成されたが、全く違和感がなく、子ども達の真の「生きる力」の育成に向かって授業づくりのアイデアや工夫は惜しみなく共有されている。支え合う研究員の姿に私も脱帽である。右の写真、授業前に子ども達の緊張を和らげる教師の言葉を聴き入れている顔である。実は緊張が一番和らいだのはこの子たちの笑顔を見た授業者である。子ども達に感謝である。



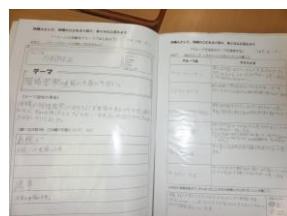
【授業の導入】



テンションを下げてゆっくり淡淡と、教師の息遣いまで感じる。本時の学習の流れを確認する。右写真、子ども達の教師に向けられた眼差しである。

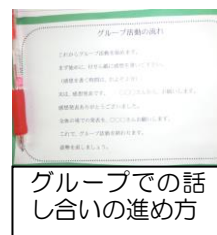


【ポートフォリオ】



子ども達の積み上げられたファイル資料を見てびっくりである。右の写真は、沖縄の伝統行事のお供え用の重箱詰の料理である。テーブルのチラシに必要な資料として綴っていた。どの子のファイルを見ても探求の跡がしっかりうかがえる。パフォーマンス評価の有効資料となる。

【授業の流れ】

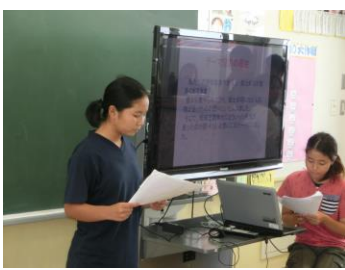


発表者：工夫してして発表しよう。
聴き手：分かったことや良さを伝えよう。

- ① 各グループで調べたことをいろんな方法で発表する。(例：TVプレゼン)
- ② 発表を聴いて、各々で付箋紙に感想等を書き、気づきや思いを共有する。
- ③ グループでの共有の後、発表グループに向けて感想として語る。

去年から各教室で、同じスタイルで「調べたことの発表」が進められている。本日は6年生、教師も子ども達も慣れている。授業の進行に滞りや不安を全く感じない。屋部小学校の共通実践の巧妙である。なによりも、授業者に不安や焦りがないことがいい。だから子ども達も安心して淡淡と進められる。





発表①：「琉球王朝宮廷料理について」
最近、小学校や中学校でパソコンの
パワーポイントを使ってのプレゼンをよく
見るようになった。低学年でもスライド
写真を投影して説明によく使われる。当
たり前化してきたが、10年前までは考え
られない時代の進化である。時代の進化
に対応しうる教師の力量や柔軟性が必要
となるのが必至である。「時代とともに」を受け入れる対応である。

【本時の評価】
[思考・判断・表現]

☆効果的な発表の仕方を工夫して
相手に分かりやすく伝えること
ができる。

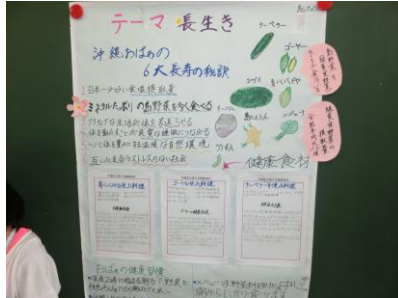
【判断基準】

発表資料・行動観察

A：(3点)
発表資料や発表態度が聞き
手に分かりやすいように工
夫されている。

B：(2点)
発表資料や発表態度におい
て聞き手への配慮が十分で
ない点がある。

C：(1点、支援、手だて)
発表資料においては、事前に
字の大きさ色の使い方など
を具体的に示しながら確認
させる。発表については、自
分にあった発表の方法につ
いて確認させる。



発表資料である。子どもたち
なりの工夫がよく見える。ほと
んどの子が発表原稿を持って伝
えていたが、プレゼンを担当し
た男の子は、原稿をほとんど見
ないで中間に語るように説明し
た。素晴らしい！目線は大事で
ある、表情が何かを伝える。



【学び合う・共有する】

グループの発表を聴いたら、各々の感想がグループで交流される。
「対話」が大切である。僕の気づきや、仲間の気づきや思いから、新
な僕の考えが内化されていく、仲間の言葉から得るものはたくさんあ
る。発表グループ
へ感想を伝える。
「僕は紹介された
沖縄料理を家族に
食べさせてあげたい。」素晴らしい！



各グループで集められたシート
である。発表者に継がれるが、教師
もポートフォリオ評価の資料とし
て活用する。



「気になる子」はどこにでもいる。なかなか
自分から関係を築けず、依存ができない。
さてこのような子にどうやって関係を築かせる
か。①周りの仲間に「気にかけてあげて」と
関わりへのきっかけをつくってあげさせるこ
とである。教室の仲間を使うことが大切。
②教師が意図的に周りの仲間へつなぐ「訊い
てごらん?」「友達と確かめてみて?」など。



T先生お疲れ様でした。2年間の肩の荷が下りましたね。若い二人の研究者もほんとに勉強になったと思
います。今後、N先生、M先生の二人は三幸先生の生き方をモデリングしていきますよ。きっと！

去年の授業から先生がテンションを下げ、小さな声で頑張ろうとしている姿がほんとかわいらしく見え
ました。「これまでの自分を断ち切る。」簡単ではありません。しかし、教師と子ども達が向かうのは、「これま
で」では無く、常に「これから」の将来と未来です。この子達は未来を生きていくのです。その未来からこの
子たちに期待される「生き方」とは・・・ 我々教師も、常に未来に向けて子ども達と一緒に成長して生
きたいものですね。素敵な授業ありがとうございました。